

I 調査の概要

- 1 調査主題 暮らし向きと県の広報広聴等に関する県民意識
- 2 調査目的 「暮らし向き」と県の「広報広聴活動」等に関する県民の意識や要望などを把握し、今後の行政推進の参考とする。
- 3 調査設計
- | | |
|---------|-------------------|
| 1) 調査地域 | 愛媛県全域 |
| 2) 調査対象 | 県内に居住する満20歳以上の男女 |
| 3) 標本数 | 2,000人 |
| 4) 抽出方法 | 選挙人名簿から層化2段無作為抽出 |
| 5) 調査方法 | 郵送法 |
| 6) 調査時期 | 平成25年11月1日～11月15日 |
| 7) 調査機関 | 愛媛県 |
- ただし、調査票の発送、回収及び集計業務は、公益財団法人 えひめ地域政策研究センターに委託。
- 4 回収結果
- | | |
|--------|--------|
| 1) 標本数 | 2,000人 |
| 2) 回収数 | 1,280人 |
| 3) 回収率 | 64.0% |

【調査結果の数値について】

調査結果の数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、単数回答の設問においては、合計が100%にならない場合があります。

調査対象者の特性

特性		対象者数 (人)	比率 (%)
性別	男性	525	41.0
	女性	719	56.2
	無回答	36	2.8
年齢	20歳代	86	6.7
	30歳代	150	11.7
	40歳代	208	16.3
	50歳代	236	18.4
	60歳代	282	22.0
	70歳以上	283	22.1
	無回答	35	2.7
職業	農林漁業	64	5.0
	自営業	96	7.5
	勤め人	476	37.2
	主婦	338	26.4
	その他	265	20.7
	無回答	41	3.2
生活文化経済圏	宇摩	83	6.5
	新居浜・西条	197	15.4
	今治	158	12.3
	松山	549	42.9
	八幡浜・大洲	148	11.6
	宇和島	108	8.4
	無回答	37	2.9

Ⅱ 調査結果の概要

1 暮らし向き

○ 昨年に比べての暮らし向き

「悪くなった」と答えた人の割合が39.9%、「変わらない」が53.4%となっている。経年変化をみると、「悪くなった」は平成21年から減少に転じ、平成23年調査（以下「前回調査」という。）と比較して2.5ポイント減少している。一方、「変わらない」及び「良くなった」は平成21年から増加に転じ、前回調査よりそれぞれ2.7ポイント、0.1ポイント増加している。

また、職業別にみると、「悪くなった」と感じている人は、自営業で54.1%と最も多くなっており、前回調査と比較して6.0ポイント増加している。

○ 暮らし向きが「悪くなった」理由

「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が45.3%と特に多く、以下「日常の生活費が増えた」（21.5%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（11.1%）の順となっている。経年変化をみると、「収入が減った（働き手が減った）」は、前回調査より2.1ポイント減少しているが、「日常の生活費が増えた」は前回調査より2.7ポイント増加している。

また、「収入が減った」と感じている人は、前回調査と比較すると、男性で9.7ポイント減少し、圏域別では、新居浜・西条圏域で11.9ポイント増加している。職業別では、自営業で「営業不振、営業経費が増えた」が、前回調査と比較して、10.1ポイント増加している。

○ 具体的な項目毎の暮らし向きの変化

「良くなった」と答えた人の割合は「道路など公共施設による便利さ」（11.5%）、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」（10.7%）などの項目で比較的多くなっている。一方「悪くなった」は、「貯蓄」（49.6%）、「所得・収入」（47.8%）などの項目で多くなっている。経年変化をみると、前回調査に比べて、「良くなった」と答えた人の割合が、「電気器具など耐久消費財」を除く全ての項目において増加し、特に「道路など公共施設による便利さ」は、4.0ポイント増加している。

また、「悪くなった」と答えた人の割合は、「食生活」を除く全ての項目において減少しているが、特に「貯蓄」は5.2ポイント減少し、「レジャー・余暇生活」は4.1ポイント減少している。

○ 暮らし向きの程度

「中」と答えた人の割合が77.2%で、暮らし向きに対する県民の中流意識は引き続き強いが、経年変化をみると、「中」と答えた人の割合は、前回調査と比較して2.7ポイント減少している。

また、「下」と答えた人の割合は、全体では、15.7%であるが、圏域別では八幡浜・大洲圏域で、前回調査と比較して8.9ポイント増加している。

年齢別では、20歳代で「下」と答えた人の割合が17.4%で、前回調査より11.1ポイント増加している。

○ 資産（土地、家屋、預貯金等）の程度

「中」と答えた人の割合が64.2%で、暮らし向きの程度（中：77.2%）と比較すると評価が低い。

また、経年変化をみると、「中」と答えた人の割合は前回調査より2.0ポイント減少し、「下」は1.8ポイント増加している。

○ 普段の生活における時間的なゆとりの有無

「ゆとりがある」と答えた人の割合が48.2%、「ゆとりがない」が49.8%であり、時間的なゆとりがないと感じている人の方が、やや多くなっている。

また、時間的なゆとりを感じている人は、年齢別では60歳代以上（60歳代：58.7%、70歳以上：59.6%）で、職業別では主婦：63.7%、その他：63.5%で特に多くなっている。

○ 現在の暮らしに対する満足度

「満足」と答えた人の割合が62.2%、「不満」が34.7%となっている。経年変化をみると、暮らしへの満足度は引き続き高くなっているが、前回調査より、「満足」は微減傾向、「不満」は微増傾向となっている。

また、職業別にみると、「不満」と答えた人の割合は、自営業（45.9%）で最も多くなっている。

○ 日常生活での悩みや不安

「老後の生活設計や家族の介護について」と答えた人の割合が60.1%と最も多く、以下、「今後の生活費の見通しについて」（53.8%）、「自分の健康について」（53.6%）の順で、将来の生活や健康に関する悩みや不安を感じている人が多くなっている。経年変化をみると、悩みや不安の上位の項目は、平成17年調査以降大きな変化はみられないが、老後の生活設計や家族の介護に関する悩みや不安を感じている人が増加傾向にある。

また、年齢別にみると、「老後の生活設計や家族の介護について」と答えた人の割合は50歳代（75.5%）で、「自分の生活上の問題」は20歳代（50.0%）で特に多くなっているなど、各年齢層によって項目に大きな違いがみられる。

○ 普段の生活の中で不足しているもの

「収入」と答えた人の割合が45.6%と特に多く、以下「自由に使える時間」（11.7%）、「資産（土地、家屋、預貯金等）」（7.6%）の順となっている。経年変化をみると、「収入」と答えた人の割合が平成14年調査以降増加し続けていたが、前回調査では減少したものの、今回は2.7ポイント増加している。

また、「収入」と答えた人は、男性の方が女性より9.6ポイント多く、70歳以上では前回調査より10.9ポイント増加している。職業別では、全ての職種で「特になし」と答えた人は減少しており、自営業では前回調査より19.3ポイント減少している。

○ 自由時間と収入に対する考え方

普段の生活の中で最も不足しているものは収入であると答えた人が多いにもかかわらず、「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い」（自由時間派）と答えた人の割合が39.7%、「自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい」（収入派）が32.8%で、自由時間を重視する人の割合の方が多くなっている。

経年変化をみると、自由時間派と収入派の差が前回調査よりも縮まり、その差が6.9ポイントに減少した。年齢別では、自由時間派は20歳代（44.2%）で前回調査より7.7ポイント増加している。

○ 日常生活で充実感を感じる時

「家族団らんの時」と答えた人の割合が23.8%と最も多く、以下「趣味やスポーツに熱中している時」（18.7%）、「ゆったりと休養している時」（15.2%）の順となっている。

また、年齢別では、前回調査と比較すると、20歳代では「家族団らんの時」が2.4ポイント減少しているが、「友人や知人と会合・雑談している時」が7.5ポイント増加している。

○ 暮らしの先行き観

「悪くなっていく」と答えた人の割合が41.6%と最も多く、「変わらない」が32.0%、「良くなっていく」が6.9%となっている。経年変化をみると、「悪くなっていく」は、平成16年調査以降増加を続けていたが、平成21年以降は減少傾向にある。一方、「良くなっていく」は、平成12年調査以降減少傾向にある。

また、年齢別では「変わらない」と感じている人は、40歳代で前回調査より8.1ポイント増加している。

○ 改善したい暮らし向き（今後の暮らしで力を入れたい項目）

「貯蓄」と答えた人の割合が33.3%と特に多く、以下「食生活」（15.7%）、「旅行・レジャー・余暇生活」（15.5%）の順となっている。経年変化をみると、「貯蓄」が平成12年調査以降、毎回第1位となっているほか、「食生活」は前回調査より1.4ポイント増加し、平成12年調査以降では、最も多くなっている。

また、「貯蓄」と答えた人の割合が20歳代（57.8%）で、「旅行・レジャー・余暇生活」は60歳代（24.4%）で、「食生活」は70歳以上（29.7%）で特に多くなっているなど、各年齢層によって今後の暮らしで力を入れたい項目に大きな違いがみられる。

○ 今後の暮らしに対する考え方

「心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」（ゆとり派）と答えた人の割合が23.2%で、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」（物質派）と答えた人の20.4%を上回っている。

また、概ね、ゆとり派は年齢が高いほど多く、物質派は年齢が低いほど多くなっている。

○ ゆとり派が重きをおきたい内容

「健康を大切にする」と答えた人の割合が43.3%と最も多く、以下「家族・友人とのふれあいを大切にする」（27.8%）、「趣味や習い事に生きがいを見つける」（13.9%）の順となっている。

○ 物質派が重きをおきたい内容

「広くて設備の整った家に住む」と答えた人の割合が26.2%と最も多く、以下「耐久消費財（立派な家具、最新の自動車・電気器具など）のそろった快適な暮らし」（22.7%）、「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」（16.3%）の順となっている。経年変化をみると、「広くて設備の整った家に住む」と答えた人は前回調査より6.2ポイント減少し、「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」は5.5ポイント減少している。

2 広報・広聴

○ 県の広報活動の周知度（県の広報活動のうち知っているもの）

「広報紙」（43.3%）、「テレビ広報番組」（34.4%）と答えた人の割合が特に多く、以下「県ホームページ」（15.2%）の順となっている。前回調査と比較すると、「広報紙」2.2ポイント増、「テレビ広報番組」5.7ポイント減、今回から調査を実施した「県ホームページ」は第3位となっている。

また、年齢別では、「どれも知らなかった」が最も多い年齢層は、20歳代（36.5%：前回調査より18.9ポイント減少）、30歳代（34.0%：前回調査より16.0ポイント減少）となっている。圏域別では、前回調査と比較すると、「広報紙」と答えた人の割合は宇摩圏域（9.2ポイント増加）で多くなっており、「テレビ広報番組」は全ての圏域で減少している。

○ 県のテレビ広報番組の視聴経験

「見たことがない」と答えた人の割合が68.0%で、「見たことがある」の32.0%

を36.0ポイント上回っている。

また、前回調査と比較すると、年齢別では「見たことがない」と答えた人の割合は、40歳代（9.5ポイント増加）、60歳代（7.1ポイント増加）及び70歳以上（12.8ポイント増加）で、圏域別では、新居浜・西条圏域（10.4ポイント増加）及び今治圏域（8.7ポイント増加）で大きく増加している。

○ テレビ広報番組の感想

「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が45.1%と特に多くなっている。

また、全ての年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が最も多くなっており、中でも70歳以上で前回調査より4.9ポイント増加している。

○ テレビ広報番組を見たことがない理由

「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が63.9%と特に多く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」（14.6%）となっており、「放送されていることを知らなかった」は、30歳代（7.3ポイント減少）及び40歳代（7.5ポイント減少）で前回調査より減少している。一方、50歳代は、5.7ポイント増加している。

また、「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」は20歳代で前回調査より14.9ポイント減少している。

○ 県のラジオ広報番組の聴取経験

「FM愛顔のえひめ（FM愛媛）」を聞いたことがあると答えた人の割合が5.9%、「週刊愛顔のえひめ（南海放送ラジオ）」が5.1%、「どれも聞いたことがない」が90.1%となっている。

また、「週刊愛顔のえひめ」と答えた人の割合は、50歳代で前回調査と比較して5.7ポイント増加している。

○ ラジオ広報番組の感想

「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が42.0%（前回調査より1.8ポイント増加）と特に多くなっている。

年齢別にみると、50歳代及び60歳代の年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して特に多くなっている。

○ ラジオ広報番組を聞いたことがない理由

「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が52.7%と特に多くなっている。

また、年齢別では、「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」と答えた人の割合が、30歳代から50歳代で多くなっている。

○ 広報紙「愛顔のえひめ」の周知度

「知っていた」と答えた人の割合が50.8%で、「知らなかった」の49.2%を1.6ポイント上回っている。性別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、女性（56.5%：前回調査より5.9ポイント増加）の方が男性（43.7%：前回調査より3.5ポイント減少）より12.8ポイント多くなっている。

また、20歳代では、「知っていた」と答えた人の割合が前回調査より10.9ポイント増加し、圏域別では、宇摩圏域で13.4ポイント増加している。

○ 広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいるか

「興味のあるところを読んでいる」と答えた人の割合が50.0%と特に多く、以下「見出し程度しか読まない」が22.1%、「全体をよく読んでいる」が16.1%となっている。

○ 広報紙「愛顔のえひめ」の感想

「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が50.8%と特に多く、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」が19.8%、「紙面は見づらいが、情報量が適当である」が16.7%となっている。

また、前回調査と比較すると、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合は60歳代（6.9ポイント減少）及び70歳以上（7.2ポイント減少）で大きく減少し、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」は60歳代（6.6ポイント増加）及び70歳以上（7.5ポイント増加）で大きく増加している。

○ 広報紙「愛顔のえひめ」に取り上げるテーマの希望

「県の行事・イベント・施設の紹介」（56.7%）、「介護や福祉、医療に関すること」（54.7%）及び「消費生活や暮らしに関すること」（49.4%）と答えた人の割合が特に多く、女性では、「介護や福祉、医療に関すること」、「消費生活や暮らしに関すること」が特に男性より多くなっている。

また、男女共に「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、特に女性（61.2%）の方が男性（51.0%）より10.2ポイント多くなっている。

○ 県政情報の情報源（情報を得る方法）

「テレビ」と答えた人の割合が54.7%と最も多く、以下「新聞」（49.4%）、「市町が発行している広報紙（誌）」（29.7%）、「県の広報紙」（27.8%）、「県の広報番組」（19.9%）の順となっている。

なお、20歳代から40歳代及び60歳代では「テレビ」と答えた人の割合が最も多くなっている。50歳代及び70歳以上では「新聞」が最も多くなっている。

○ 今後の広報活動の取組み

「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が59.0%と最も多く、以下「県の広報紙の充実」（37.2%）、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」（26.5%）、「記者発表などマスコミの活用の充実」（22.3%）の順となっている。

また、年齢別では、全ての年齢層で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、30歳代、60歳代及び70歳以上で60%を超えている。「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログの充実」は年齢層が低いほど多くなっている。

この他、全ての圏域で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」が最も多く、中でも宇和島圏域（70.0%）で他の圏域と比較して多くなっている。

○ 知りたいと思う県政情報

「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が32.5%と最も多く、以下「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」（28.2%）、「県の施設の紹介や利用方法」（24.2%）の順となっている。

また、男性では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が最も多く、女性より12.3ポイント多い。一方、女性では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」が最も多く、男性より11.0ポイント多い。

この他、30歳代では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」が前回調査より10.4ポイント減少しており、「県の予算の内容と使いみち」は20歳代で多くなっている。

○ 県民の声を県政に反映させる手段

「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が30.7%と最も多く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」（23.8%）、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」（11.7%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が20歳代（9.6ポイント減少）及び60歳代（6.5ポイント増加）で変化し、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」は、20歳代（4.2ポイント増加）及び50歳代（6.5ポイント減少）に変化している。

○ 県民の声（県への意見、要望等）の伝達方法

「県に電話をかける」と答えた人の割合が22.2%と最も多く、以下「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」（11.9%）、「市町を通じる」（11.6%）などの順となっている。

また、30歳代から60歳代では「県に電話をかける」が、70歳以上では「市町を通じる」が最も多くなっており、伝達方法がわからない人は、20歳代で特に多くなっている。

この他、農林漁業を除く全ての職業で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では「市町を通じる」が最も多くなっている。自営業は「県に電話をかける」が前回調査と比較して13.4ポイント増加している。

○ 県政出前講座の周知度

「知らなかった」と答えた人の割合が92.3%で、「知っていた」の7.7%（前回調査より2.7ポイント減少）を大きく上回っており、60歳代以下では知っていた人が10%以下となっている。

○ 県政出前講座を利用したいかどうか

「利用したい」と答えた人の割合が16.8%、「利用したいとは思わない」が25.1%であるのに対し、「わからない」が58.1%となっている。

また、全ての年齢層で「わからない」が50%を超えている。

この他、前回調査と比較すると「利用したいとは思わない」と答えた人の割合が、50歳代で9.7ポイント増加している。

○ 県政出前講座を利用したいと思わない理由

「利用する時間がないから」と答えた人の割合が25.5%と最も多く、以下「県政に興味がないから」（21.9%）、「講座は難しそうなイメージがあるから」（14.4%）「設定されている講座テーマを知らないから」（13.7%）の順となっている。前回調査と比較すると、「県政に興味がないから」が6.1ポイント増加している。

3 愛媛県のイメージ

○ 現在の愛媛県のイメージ

「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が82.5%と特に多く、以下「不便である」（24.2%）、「物価が安い」（22.7%）の順となっている。

また、全ての年齢層、圏域及び職種で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人が特に多くなっている。

○ 今後の愛媛県のあるべき姿のイメージ

「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が54.7%、「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」が48.0%で特に多く、以下「高齢者や障害者にもやさしい」（29.3%）、「経済や産業が盛んである」（24.5%）の順となっている。

また、圏域別では、宇和島圏域で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が、前回調査より13.3ポイント増加し、63.8%と多くなっているほか、職業別では、農林水産業で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」が10.8ポイント増加し、「古き良さを大切にし、伝統を尊重する」が12.8ポイン

ト増加している。

4 県政への要望

○ 産業面で特に力を入れてほしい施策

「雇用対策」と答えた人の割合が35.0%と特に多く、以下「道路整備」(14.9%)、「農林業の振興」(14.8%)の順となっている。経年変化をみると、「雇用対策」と答えた人の割合は、平成12年調査以降上昇傾向であったが、平成21年からは減少し、前回調査と比較して4.5ポイント減少している。

また、「雇用対策」と答えた人の割合が全ての年齢層で最も多くなっているが、前回調査と比較すると、30歳代で12.0ポイント減少しており、圏域別では、今治圏域で10.3ポイント減少している。その他、宇摩圏域では「道路整備」が前回調査より11.7ポイント増加している。

○ 生活環境面で特に力を入れてほしい施策

「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が35.2%で最も多く、以下「医療、保健衛生機能の拡充」(17.8%)、「物価、消費者保護対策」(15.6%)、「子育て支援対策」(13.5%)の順となっている。経年変化をみると、「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が前回調査より7.8ポイント増加し、平成12年調査以降最も高くなっているが、「医療、保健衛生機能の拡充」は平成19年調査以降減少傾向にあり、前回調査より7.1ポイント減少している。

また、30歳代以下では「子育て支援対策」と答えた人の割合が最も多く、特に30歳代が多い。40歳代以上では「介護・福祉サービスの充実」が最も多く、特に70歳以上が多い。

○ 教育面で特に力を入れてほしい施策

「学校教育の充実」と答えた人の割合が30.9%で最も多く、以下「社会教育の充実」(21.4%)、「青少年の健全育成」(16.3%)の順となっている。

経年変化をみると、「家庭教育の充実」は減少傾向にあり、平成12年と比較すると7.4ポイント減少している。

また、50歳代以下では「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代及び40歳代では他の年齢層と比較して特に多くなっている。

5 特定課題

【県職員の意識改革】

○ 県職員のあいさつ

「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が69.0%、「いつも、あいさつができています」が8.3%、「時々、あいさつができています」が7.6%であるのに対し、「あまり、あいさつしていない」が9.6%、「あいさつしていない」が5.5%となっている。

また、年齢別では、「いつも、あいさつができています」と「時々、あいさつができています」の割合の合計が70歳以上(21.0%)で最も多く、圏域別では、八幡浜・大洲圏域(20.6%)で最も多い。

○ 県職員の意識改革の進捗

「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が74.9%で、「十分に進んでいる」が2.3%、「ある程度進んでいる」が7.6%、「あまり進んでいない」が12.7%、「全く進んでいない」が2.6%となっている。

また、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除いて再計算すると、「十分に進んでいる」が9.1%、「ある程度進んでいる」が30.2%、

「あまり進んでいない」が50.3%、「全く進んでいな」が10.4%となる。

○ 県職員の意識改革が進んでいない理由

「県職員は、柔軟な対応ができていない」と答えた人が46.2%と最も多く、以下「県職員は、困難な課題には逃げ腰になる」(32.3%)、「県職員の対応は、遅い」(29.2%)、「県職員の対応は、親切心に欠ける」(28.5%)、「県職員の対応は、高圧的であると感じる」(26.9%)などの順となっている。

【えひめ国体の周知度】

○ えひめ国体の認知度

「よく知っている」と答えた人の割合が25.8%、「聞いたことはある」が47.3%、「全く知らない」が26.9%となっている。

また、30歳代以下及び70歳以上では、「全く知らない」が他の年齢層と比較して多くなっている。

○ えひめ国体の情報源

「テレビ」と答えた人が63.8%で最も多く、以下「新聞」(44.9%)、「県政広報誌」(24.5%)、「ポスター」(14.7%)、「パンフレット、チラシ」(12.1%)、「ラジオ」(9.7%)の順となっている。

また、全ての年齢層で「テレビ」と答えた人の割合が最も多く、特に50歳代以上で他の年齢層と比較して多くなっている。

この他、「新聞」と答えた人の割合は、年齢が高くなるほど多くなり、逆に、「ポスター」は年齢が低くなるほど多く、「県政広報誌」は、50歳代及び60歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。

【男女共同参画社会づくり】

○ 男女共同参画社会づくりという言葉の認知度

「よく知っている」と答えた人の割合が8.8%、「知っている」が26.7%、「言葉くらいは聞いたことがある」が34.5%であり、「知らない」は30.1%となっている。

性別にみると、「よく知っている」及び「知っている」と答えた人の割合の合計は、男性(38.2%)の方が女性(33.4%)より4.8ポイント多く、逆に「知らない」は女性の方が2.5ポイント多い。

【ボランティア活動の活性化】

○ ボランティア活動など社会貢献活動への参加状況

「定例的に参加している」(12.0%)、「年に1回以上は参加している」(14.5%)、「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」(26.7%)、「参加したことがない」(46.8%)となっている。

また、「定例的に参加している」は、60歳代(20.6%)で多く、20歳代(1.2%)及び30歳代(5.3%)では少なくなっている。職業別にみると、「定例的に参加している」と「年に1回以上は参加している」を加えた割合は、農林漁業で54.0%と特に多い。

【人権問題】

○ 人権が尊重されている社会としての意識

「そう思う」と答えた人の割合が22.9%で、「どちらとも言えない」が43.7%、「そうは思わない」が19.4%、「わからない」が14.0%となっている。

また、性別にみると「そう思う」と答えた人の割合は、男性(26.6%)の方が女性(20.3%)より6.3ポイント多く、その他、全ての年齢層及び職業で「どちらとも言えない」と答えた人が最も多くなっている。

○ 関心のある人権問題

「障害者」(28.3%)と答えた人が最も多く、以下「高齢者」(26.4%)、「北朝鮮による拉致問題」(19.0%)、「インターネットによる人権問題」(16.6%)、「子ども」(15.9%)、「東日本大震災に伴う人権問題」(12.1%)、「同和問題」(11.1%)の順となっている。

また、30歳代以下及び50歳代では「障害者」と答えた人の割合が最も多く、40歳代では「インターネットによる人権問題」、60歳代では「障害者」と「高齢者」が同率で最も多く、70歳以上では「高齢者」(43.3%)が最も多くなっている。

【家庭での備蓄】

○ 災害に備えた生活物資の備蓄

「準備している」と答えた人の割合が30.5%、「準備していない」は69.5%となっている。

「準備している」と答えた人の割合は、20歳代(34.9%)で最も多く、70歳以上(26.7%)で最も少ない。

○ 災害に備えて備蓄しているもの

「飲料水」と答えた人が77.0%で最も多く、以下「缶詰」(47.3%)、「インスタント麺」(38.1%)、「乾パン」(35.9%)、常備薬(33.5%)、救急箱(30.5%)などの順となっている。

また、全ての年齢層及び圏域で「飲料水」と答えた人の割合が最も多く、圏域別では、「缶詰」と答えた人は新居浜・西条圏域(65.1%)で、「救急箱」は八幡浜・大洲圏域(45.9%)で比較的多い。

○ 災害に備えて備蓄しているものの量

「3日分」と答えた人が40.3%で最も多く、以下「2日分」(25.9%)、「1日分」(12.9%)などの順となっている。

また、全ての圏域で「3日分」と答えた人の割合が最も多く、続いて全ての圏域で「2日分」(宇和島圏域では「1日分」と同率)が多くなっている。

その他、50歳代以上では、「5日分」と答えた人の割合が40歳代以下と比較して特に多くなっている。

○ 災害に備えて備蓄していない理由

「何を準備していいかわからない」と答えた人が34.8%で最も多く、以下「買い置きしている物で十分だと考えている」(34.2%)、「備蓄にお金がかかる」(32.4%)、「備蓄物資を置く場所がない」(20.8%)などの順となっている。

また、「備蓄にお金がかかる」は概ね年齢が低くなるほど多くなっている。

【海外との姉妹提携】

○ ハワイ州との姉妹提携の認知度

「知っている」と答えた人の割合が70.8%、「知らなかった」が29.2%となっている。

また、性別にみると「知っている」が、男性(70.7%)と女性(70.9%)でほぼ同率となっている。この他、年齢別では、概ね年齢層が高くなるほど「知っている」と答えた人の割合が多く、圏域別では、宇和島圏域(87.7%)で最も多く、宇摩圏域(63.4%)で最も少なくなっている。

○ ハワイ州との姉妹関係の進め方

「将来の交流主体となる若い世代を中心に、学校間交流、修学旅行、ホームステイなどを通じた交流を深めるべきである」と答えた人が58.6%で最も多く、以下「えひめ丸事故犠牲者の慰霊をきっかけとした関係であることを踏まえ、両

地域の住民の精神的なつながりを強化すべきである」（48.7%）、「互いの特産品や工業製品、サービスなどの取引を拡大し、経済的な結びつきを強化すべきである」（32.4%）などの順となっている。

また、全ての年齢層で「将来の交流主体となる若い世代を中心に、学校間交流、修学旅行、ホームステイなどを通じた交流を深めるべきである」と答えた人の割合が最も多くなっている。圏域別では、八幡浜・大洲圏域で「えひめ丸事故犠牲者の慰霊をきっかけとした関係であることを踏まえ、両地域の住民の精神的なつながりを強化すべきである」が最も多く、他の圏域と比較しても特に多くなっている。

○ ハワイ州以外の海外との友好関係（姉妹提携）

「経済発展が著しく、本県への留学も増加傾向にある東南アジア諸国との関係を開拓していくことが望ましい」と答えた人が42.9%で最も多く、以下「自転車交流などの実績がある中華民国（台湾）との友好関係を発展させることが望ましい」（34.3%）、「定期航空路が就航しており、隣国として交流の歴史が深い大韓民国との友好関係を、さらに深めていくことが望ましい」（25.3%）などの順となっている。

また、全ての年齢層で「経済発展が著しく、本県への留学も増加傾向にある東南アジア諸国との関係を開拓していくことが望ましい」と答えた人の割合が最も多く、圏域別では、今治圏域で「自転車交流などの実績がある中華民国（台湾）との友好関係を発展させることが望ましい」が最も多く、他の圏域と比較しても特に多くなっている。

【愛媛甘とろ豚の周知度】

○ 「愛媛甘とろ豚」の認知度

「知っているが、まだ食べたことはない」と答えた人の割合が40.6%と最も多く、以下「知っているし、既に食べたことがある」（38.1%）、「知らなかった」（21.3%）の順となっている。

また、年齢別にみると、「知らなかった」と答えた人は70歳以上（34.2%）で特に多く、圏域別にみると、松山圏域で「知っているし、既に食べたことがある」が49.5%で最も多く、他の圏域は「知っているが、まだ食べたことはない」が最も多くなっている。

○ 「愛媛甘とろ豚」を知った方法

「テレビ番組、テレビニュース、CMで見た」と答えた人の割合が63.8%と最も多く、以下「販売店（百貨店、スーパー、精肉店）で見た」（57.2%）、「新聞で見た」（24.2%）、「飲食店のメニューや看板などで知った」（21.1%）などの順となっている。

また、年齢別では「テレビ番組、テレビニュース、CMで見た」は50歳代以上で多くなっており、「新聞で見た」は20歳代（3.3%）で特に少なくなっている。

○ 「愛媛甘とろ豚」を食べた感想

「大変美味しかったので、また購入したい（又は食べに行きたい）」と思った」と答えた人の割合が60.7%と最も多く、以下「他の豚とあまり変わらないと思った」（27.2%）、「美味しかったが、また購入したい（又は食べに行きたい）」とは思わなかった」（11.0%）、「他の豚よりも美味しくないと思った」（1.1%）の順となっている。

また、性別にみると、男女共に「大変美味しかったので、また購入したい（又は食べに行きたい）」と思った」と答えた人の割合が最も多く、特に女性（64.2%）の方が男性（54.6%）より9.6ポイント多くなっている。年齢別にみると、全ての年齢層で「大変美味しかったので、また購入したい（又は食べに行き

たい) と思った」と答えた人の割合が最も多く、中でも50歳代が68.5%で最も多くなっている。

○ 「愛媛甘とろ豚」は美味しかったが、また食べたいとは思わない理由

「価格が高い」と答えた人の割合が52.2%と特に多く、以下「近くで購入したり、食べられる店がない」(30.4%)、「その他」(17.4%)の順となっている。

○ 「愛媛甘とろ豚」を食べたことがない理由

「豚肉のブランドや産地にはあまり関心がない」と答えた人の割合が29.1%と最も多く、以下「「愛媛甘とろ豚」を取り扱っている販売店や飲食店がどこにあるかわからない」(27.4%)、「価格が高い」(14.7%)、「近くで購入したり、食べられる店がない」(14.3%)などの順となっている。

また、性別にみると、「「愛媛甘とろ豚」を取り扱っている販売店や飲食店がどこにあるかわからない」と答えた人の割合は、男性の方が女性より7.5ポイント多く、「価格が高い」は女性の方が男性より8.6ポイント多くなっている。年齢別にみると、「豚肉のブランドや産地にはあまり関心がない」と答えた人の割合は、60歳代(39.5%)で最も多く、圏域別にみると、「「愛媛甘とろ豚」を取り扱っている販売店や飲食店がどこにあるかわからない」は、新居浜・西条圏域(45.9%)で特に多くなっている。

【反射材の着用】

○ 反射材の着用度

「全く着けていない」と答えた人の割合が59.5%で最も多く、以下「ほとんど着けていない」(17.4%)、「だいたい着けている」(15.8%)、「いつも着けている」(7.2%)の順となっている。

また、性別にみると、「ほとんど着けていない」と「全く着けていない」と答えた人の割合の合計(男性:79.5%、女性:75.1%)は男性の方が女性より4.4ポイント多くなっている。その他、着用率は、概ね年齢層が高くなるほど増加し、圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域で最も多く、松山圏域で最も少なくなっている。

○ 着用したい反射材

「手首等に巻くリストバンド型」と答えた人が40.6%と最も多く、以下「かばん等に取り付けるキーホルダー型」(29.0%)、「肩から掛けるタスキ型」(24.3%)、「靴等に貼り付けるシール型」(22.3%)などの順となっている。

また、性別にみると、男女共に「手首等に巻くリストバンド型」と答えた人の割合が最も多く、「かばん等に取り付けるキーホルダー型」は、女性(34.0%)の方が男性(22.8%)より11.2ポイント多くなっている。年齢別にみると、70歳以上で「肩から掛けるタスキ型」と答えた人が37.8%で最も多く、圏域別にみると、宇摩圏域では「手首等に巻くリストバンド型」が61.0%で特に多く、八幡浜・大洲圏域では、「肩から掛けるタスキ型」が36.4%で比較的多くなっている。

【警察の広報活動】

○ 警察の広報活動の認知度

「交通安全等のイベント」と答えた人の割合が46.3%と最も多く、以下「広報紙」(31.3%)、「音楽隊」(29.5%)、「不審者情報等の情報発信」(20.8%)、「広報番組」(18.5%)、「ホームページ」(7.0%)の順となっている。

また、性別にみると、男女共に「交通安全等のイベント」と答えた人の割合が最も多く、「広報紙」は、女性(33.8%)の方が男性(27.4%)より6.4ポイント多く、「音楽隊」についても、女性(33.3%)の方が男性(24.2%)より9.1ポイント多い。圏域別にみると、宇摩圏域で「広報紙」が45.9%で最も多く、他の圏域と比較しても特に多い。

○ 警察の広報活動の満足度

「ほぼ満足」と答えた人の割合が56.7%と最も多く、以下「あまり満足していない」(31.8%)、「満足」(6.9%)、「不満」が(4.6%)の順となっている。

また、性別にみると、「満足」と「ほぼ満足」と答えた人の割合の合計(男性：59.4%、女性：66.5%)は女性の方が男性より7.1ポイント多くなっており、年齢別にみると、60歳以上で他の年齢層と比較して多くなっている。